

第2章 中央市の概要

1 位置と地勢

(1) 位置

平成18年2月20日旧玉穂町、旧田富町、旧豊富村が合併し中央市が誕生しました。中央市は山梨県の中央南部に位置しています。東は鎌田川を挟んで甲府市（旧中道町）に、北はJR身延線、昭和バイパスを境に昭和町に、西は釜無川を挟んで南アルプス市に、南は市川三郷町に接しています。釜無川により形成された沖積平野の平野部と、御坂山系からなる山間部との二つの地理的特性を持っており、両地域は笛吹川によって隔てられています。平野部は玉穂・田富の2地区が笛吹川と釜無川に挟まれた形で位置しており、豊富地区は山間部に広がる地域となっています。

(2) 面積

玉穂地区が8.22k㎡、田富地区が10.09k㎡、豊富地区が13.50k㎡、合計31.81k㎡となります。土地の利用状況は、平成15年度段階では宅地が19.4%、農地が36.5%、山林が16.4%、その他27.7%であり、農地の占める割合が高くなっています。

2 人口と世帯

中央市の平成12年度の国勢調査の人口は30,769人で、10年前の平成2年の国勢調査と比べますと18.9%の伸びとなっています。しかし平成18年では30,123人で、近年は伸びがゆるやかになっています。

世帯数は平成18年で10,998世帯となっており、1世帯あたりの人員は2.7人で、核家族化の進行が顕著に見られます。

転入者の数は平成18年で2,300人で、住宅地の造成、借家の増加、地理的条件などにより今後も増加が見込まれます。また外国人の登録者数も相当数増えると想定されます。

年齢別人口の構成比を見ると、平成18年の国勢調査では年少人口（0～14歳）15.9%生産年齢人口（15～64歳）67.8%、老年人口（65歳以上）16.3%となっており、山梨県全体の年齢別構成比と比較すると生産年齢人口の割合が高く、比較的若い年齢の多い地域といえます。

人口と世帯数の推移(単位:人、世帯、%)

	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年
総人口 (人)	16,812	21,984	25,868	28,543	30,769	31,650
増加率 (%)	—	30.8	17.7	10.3	7.8	7.8
一世帯当たり の人員 (人)	3.8	3.4	3.2	3.0	2.8	2.7

資料:昭和 55 年～平成17年国勢調査

人口動態(単位:人)

毎年10月1日時点の常在人口から

		平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
総人口		30,091	30,085	29,932	30,063	30,123
世帯数		10,590	10,608	10,645	10,827	10,988
世帯あたりの人員		2.84	2.84	2.81	2.78	2.74
出生	外国人 を含む (年度)	362	353	312	337	298
死亡		179	184	174	204	206
転入		859(旧田富 町資料なし)	1,619	1,583	2,226	2,302
転出		863(旧田富 町資料なし)	1,850	1,699	2,185	2,357

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
外国人	1,780	1,892	2,095	2,188	2,226

年齢 3 区分別人口の推移(単位:人)

区 分	昭和 55 年		昭和 60 年		平成 2 年		平成 7 年	
	数	%	数	%	数	%	数	%
総人口	16,812	100	21,984	100	25,868	100	28,543	100
年少人口 0～14 歳	4,266	25.4	5,462	24.8	5,844	22.6	5,654	19.8
生産年齢人口 15～64 歳	10,820	64.4	14,388	65.5	17,443	67.4	19,710	69.1
老年人口 65 歳以上	1,722	10.2	2,134	9.7	2,577	10.0	3,175	11.1
年齢不詳	4	0.0	0	0	4	0.0	4	0.0
区 分	平成 12 年		平成 17 年		平成 18 年			
	数	%	数	%	数	%		
総人口	30,769	100	31,650	100	30,123	100		
年少人口 0～14 歳	5,531	18.0	5,144	16.2	4,801	15.9		
生産年齢人口 15～64 歳	21,274	69.1	21,741	68.7	20,423	67.8		
老年人口 65 歳以上	3,959	12.9	4,765	15.1	4,899	16.3		
年齢不詳	5	0.0	0	0	0	0		

資料:昭和 55 年～平成 17年国勢調査、18年は 10 月 1 日現在の常住人口より

産業別就業者人口の推移

区分	昭和 55 年		昭和 60 年		平成 2 年		平成 7 年	
	数	%	数	%	数	%	数	%
総人口								
就業者	8,429	100	10,997	100	13,215	100	15,042	100
第 1 次産業	2,469	29.3	2,188	19.9	1,721	13.0	1,468	9.8
第 2 次産業	2,563	30.4	3,852	35.0	5,057	38.3	5,816	38.7
第 3 次産業	3,388	40.2	4,931	44.8	6,419	48.6	7,753	51.5
分類不能	9	0.1	26	0.3	18	0.1	5	0
区分	平成 12 年		平成 17 年					
	数	%	数	%				
総人口								
就業者	16,451	100	16,473	100				
第 1 次産業	1,436	8.7	1,396	8.5				
第 2 次産業	6,251	38.0	5,525	33.7				
第 3 次産業	8,738	53.1	9,420	57.0				
分類不能	26	0.2	132	0.8				

資料:昭和 55 年～平成 17年国勢調査